

# 建設防災 ボランティアニュース 第 34 号

## 年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。暮れから新年にかけて全国的に天候は大荒れの空模様でしたが、幸い関東地方は晴れて穏やかな正月を迎えることができました。今年はサッカーのワールドカップや冬季オリンピック等大きな祭典も行われますのでお正月の空のように明るい年になってもらいたいものです。

昨年日本は、なべ底といわれる経済の低迷から浮上することはできませんでした。人々の期待を担って政権交代という大きな変革が、起こりました。民主党政権発足以来三カ月経ちましたが、政権の内閣支持率は、ついに 50% 程度になりました。早く国民の期待に応えてほしいものです。

新しい政権は、公共事業費を大幅に削減する方向で予算案を作成しています。

しかし、気候変動の激化に伴い、近年の土砂災害は増加・激甚化の傾向を見せ昨年の土砂災害は 1,000 件を超えました。東名高速道路が路肩崩壊により交通止めになったのは記憶に新しいところです。国土の安全、国際競争に負けない国づくりを考えるとまだまだ公共施設の整備は、必要と思われます。メリハリの利いた事業投資を進めてほしいと思います。

さて、当協会の活動ですが、会員の皆様のご協力により 21 年度の事業計画は順調に進められ、残すところは建設局初動対応訓練と防災講習会のみとなりましたが、積極的な参加をよろしく願います。

また、昨今の社会状況により新会員の入会が減少しているため、会員の皆様には退職後も引き続き協会活動に参加いただくようお願いしております、ご協力よろしく願います。

今年も協会活動の一層の充実に向けて役員一同頑張っておりますので会員の皆様のさらなるご支援をお願いいたします。この一年が会員の皆にとって幸多い年となりますよう祈念いたします。

終わりにりましたが常日頃協会活動に御支援とご理解をいただいております東京都建設局、東京都道路整備保全公社、東京都公園協会にお礼申し上げますとともに本年も変わらぬご指導をお願いいたしまして挨拶とさせていただきます。

東京都建設防災ボランティア協会会長  
沼尻 敦

## 平成 21 年度救命講習会の開催

### 普通救命講習会報告

台風一過の秋晴れとなった、10 月 27 日(火)に会員 17 名が参加して新宿消防署において開催されました。普通救命講習は 3 時間(午後 1 時から 4 時)で、心肺蘇生(CPR)、AED(自動体外式除細動器)、気道異物除去の講義を受けました。

この、3 つの救命行為は、救急隊員や医療従事者でなくても行うことが出来る処置です。前半は、丸山講師の心肺蘇生(CPR)の話です。話を聞いている時は、処置の流れなど解ったつもりでも、いざ、実技になると???となってしまいます。



### CPR の実技講習

実技は、二人で行ったのでなんとか出来るようになり一安心でした。心肺蘇生(CPR)は、人工呼吸後に行う胸骨圧迫では、十分な強さ(4~5cm沈

むまで)、十分な速さ(1分間に 100 回のテンポ)が必要で、絶え間なく圧迫する動きは、高齢者だと大変な重労働になり、かなり疲れしました。

後半は、猪俣講師による AED(自動体外式除細動器)の重要性と効果の説明です。AED は、高性能の心電図自動解析装置を内蔵した医療機器で、心電図を解析し除細動(電気ショック)が必要な不整脈を判断する機器です。その後、実際に機器を使った実技を行いました。



**AED の実技講習**

実技については、音声メッセージに従い実施すればよく、除細動(電気ショック)を実施した後、直ちに胸骨圧迫から心肺蘇生を再開し、胸骨圧迫30回、人工呼吸2回の心肺蘇生を2分間行い、メッセージを待ち繰り返し行います。

このように、一人で行うことはかなり大変でした。多くの人々の関心を高め、協力しあえる環境を作ることが肝要と思われます。「突然の心停止」は、多くの場合、心室細動という不整脈が原因といわれています。

しかし、除細動の効果には時間の経過が影響し、1分経過するごとに7~10%生存率が低下し、2分後で75%の生存率も10分後には0%近くになってしまうそうです。いずれにしても、そのような現場に遭遇したら、心肺蘇生とAEDの使用を早急に実施できるように、大声をだして周りの人々に助けを求めることが大事です。

講義は、昼食後の眠気が襲う時間帯にもかかわらず、二人の講師は経験豊富で、ユーモアを交えたり、突然質問したりと、居眠りする時間はありませんでした。今回の講習を受講して、より明確に心肺蘇生とAEDの重要性を再認識できました。

これからは、素早く勇気をもって行動できるように心がけます。

最後にご多忙の折、熱心に講義をいただいた(財)日本救急協会の丸山さん、新宿消防署の猪俣さんに紙面より感謝の意を表します。

堀内 康彦

## 平成 21 年度施設見学会の開催

- 大橋ジャンクション建設と街づくり -

### 施設見学会の報告

平成 21 年度の施設見学会は、11 月 24 日(火)に 50 名の会員の参加のもと首都高速中央環状線大橋ジャンクションの現場で開催されました。

現場は高速 3 号渋谷線と目黒川沿いにあり、見学会は都市整備局の萩原再開発事務所長、首都高速道路株式会社の佐伯所長の挨拶で始まり、担当の方から各事業の説明がありました。



**建設中の大橋ジャンクションと再開発ビル**



**萩原所長**

**佐伯所長**

大橋JCT建設と周辺の街づくりは、都施行の市街地再開発事業を中心に東京都・目黒区・首都高速道路(株)が一体となって進めているとのことです。説明によると、大橋JCTは、ループ一周が400mの地下36m、地上35mの四層構造で、主な特徴は、

コンパクトな計画(従来の1/4の規模に縮小)

環境、景観に配慮(騒音対策、道路・周辺等)

街づくりと一体的な整備

とのことです。

## 平成 21 年度砂防講習会の報告

12月21日(月)14時から50名の会員が参加して、東京都道路整備保全公社の会議室で、小山副会長の挨拶に続き砂防講習会が開催されました。



大橋ジャンクション屋上の参加会員

地上部からループ内に入ると、天井の高さ、幅員の広さなど、規模の大きさに驚かされました。給排気などの換気施設や消火施設の説明を受けながらループの屋根部分に案内されました。

そこは、完成時に約 7,000 m<sup>2</sup>の区の立体都市公園になり、再開発ビルに接続されるとのことです。

遠藤市街地整備部長より「この事業のような『まちづくりと一体のみちづくり』が期待されている」との挨拶があり、最後に大橋地区再開発事業で既に完成している 27 階建ビル(プリズムタワー)の屋上から地上約 100mの眺望を楽しみました。



講習会の様子

公務多忙の中、ご出席をいただいた廣木河川部長からは、土砂災害訓練や河川愛護月間行事等に際しては、当協会員の協力に感謝とお礼の言葉が述べられました。

また、台風18号は2年ぶりに上陸したにもかかわらず被害が無く、知事よりお褒めの言葉をいただいたこと等河川部の近況を込めた挨拶をいただきました。



遠藤市街地整備部長

曇り空で富士山は望めませんでしたが、新宿、渋谷、六本木や三軒茶屋のビル群などを望むことができました。また、眼下に見える高速3号線の車の流れが、来年3月の大橋JCTの完成により、どのように変わるのか、楽しみな見学会でした。関係者の皆様、ありがとうございました。

関谷 英夫



佐々木防災課長の説明

河川部佐々木防災課長からは「都の財政と砂防事業関係予算」についての話をさせていただきました。平成18年度以降事業費全体の伸びが低い中で、砂防・海岸関係の事業費は大きく伸びているのが特徴とのことでした。

三宅島の復興は応急対策、恒久対策事業も順調に進み、平成18年度以降は事業費の伸びも横

ばいで推移し安定している。

榎木沢砂防堰堤ダムの敷地は平成22年度にモトクロスバイクレースが予定されており、三宅島の観光に期待されている等の説明をいただきました。「近年の土砂災害発生事例」についての、防災課高橋晋砂防係長の講演では、土砂災害の事例を動画で紹介し、分かり易く説明していただきました。

土、石、砂、樹木が水と一緒に濁流となって一気に流れてくる土石流や、斜面が突然崩れ落ちるがけ崩れや、山地や丘陵の斜面を動く地すべりは、言葉に表わせない程の迫力のある映像でした。

土石流対策として砂防ダムの整備、がけ崩れ対策としてのり枠工、よう壁工、落石防止工の整備、地すべり対策として地下水の排水をしているとのことです。

都内の危険箇所は約3,700箇所が判明しており、調査中を含めると約8,000箇所になると推定しているとのことです。

「ソフト・ハード連携した土砂災害対策の取組と今後の展開」については、計画課永田有利雄計画調査係長の講演で、土砂災害から都民の生命と財産を守るために、土砂災害のおそれのある区域についての、ソフト対策と砂防施設の整備等のハード対策を実施することによって、効果を期待しているとのことです。

対策として基礎調査を実施しハザードマップの作成を行い、土砂災害警戒区域の指定を確定し危険性の周知と警戒避難体制の整備をすることです。土砂災害ハザードマップによる周知の徹底、住宅等新規立地抑制、既存住宅の移転促進によるソフト対策と砂防施設の整備や、避難所を整備するハード対策とを連携して取組んでいるとのことです。

「気象情報・土砂災害警戒情報」については、気象庁から出向している防災課三村恭則さんの講演で、我々が日頃接している気象情報の種類には、天気予報、週間予報、時系列予報、季節予報、分布予報、注意報・警報、土砂災害警報、台風予報、洪水予報等々あること。

予報用語も0時から24時まで3時間毎に呼び名が変わり、例えば0時から3時は未明、3時から6時は明け方、18時から21時を夜のはじめ頃と呼ぶこと、気象情報ができるまでは、船舶、航空機、気象衛星、レーダー等の観測資料をもとに、

スーパーコンピューターでの数値予測資料、予報作業を経て、情報発表しているそうです。

気象警報・注意報の区域に関しては、多摩西部、多摩南部、多摩北部、23区西部、23区東部の区分でしたが、平成22年度からは区市町村を対象にしたものに改める計画であること、これらの気象情報を活用すれば、被害も減らすことができるので、普段から天気に関心をもっていたいただければとのことでした。

お忙しい中、資料を用意し講演されました、河川部長、防災課長、計画課並びに防災課の担当者をはじめ、関係者の皆様にお礼を申し上げます。

高橋 好弘

## 協会からのお知らせ

### 1. 新入会員の紹介

米田 秀男 (H21.11、北南建)

岩井 壮三 (H21.11、二 建)

大畑 博 (H21.12、四 建)

敬称略( )内は、入会年月、参集事務所

### 2. 平成21年度初動対応訓練

今年度の訓練は、各建設事務所で2月5日(金)に行われます、会員の皆様の協力をお願いします。

担当理事 本間、新井、堀中

### 3. 防災講習会

今年度の防災講習会は、昨年に続き土木技術支援・人材育成センターのご協力により、災害時の情報連絡に威力を発揮すると思われ「レスキューナビゲーションシステム」について講義していただきます。より多くの会員の皆様の参加をお願いします

日 時:平成22年3月3日(水)14:30~

場 所:道路整備保全公社大会議室

担当理事 小山、加藤、藤田

発行人:沼尻 孰

発 行:東京都建設防災ボランティア協会

所在地:東京都新宿区西新宿2-3-1

財団法人 東京都道路整備保全公社内

編 集:加藤 基雄、中田 勝司、丸岡 敏夫